

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

2022年 6月 1日

高知県知事 濱田省司 殿



提出者

住所 高知県土佐郡土佐町相川1069

氏名 嶺北興産 株式会社

代表取締役 西野 和正

電話番号 0887-82-1032

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他の処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	嶺北興産 株式会社
事業場の所在地	高知県土佐郡土佐町相川1069
計画期間	2022年4月1日 から 2023年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	窯業・土石製品製造業
② 事業の規模	前年度実績 182,150,000円
③ 従業員数	正規社員 30名 パート社員 4名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	注文 → (砕石・砂・セメント・混和剤) 混練り → ミキサー車での出荷 → コンクリート打設 → 残コンクリートの持帰り  産廃ストック → 運搬 → 処分場(再生) (再生品目 RC40・RC30・RC5-0)

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		
<p>(管理体制図)</p> <p>代表取締役 西野和正 (産業廃棄物担当役員)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>工場長 稲垣 栄 (廃棄物処理統括責任者)</p> <p style="text-align: center;">↓ 1. 廃棄物処理方針の策定</p> <p style="text-align: center;">↓ 2. 廃棄物処理に関する各種事項の決定、承認</p> <p>取締役部長 永野隆俊 (廃棄物管理担当責任者)</p> <p style="text-align: center;">↓ 1. 廃棄物管理状況の把握と改善策の検討</p> <p style="text-align: center;">↓ 2. 処理業者、再生利用業者の調査、選定及び管理</p> <p style="text-align: center;">↓ 3. 委託契約の締結</p> <p style="text-align: center;">↓ 4. 産業廃棄物管理票の交付・管理</p> <p style="text-align: center;">↓ 5. 監督官庁への各種報告</p> <p style="text-align: center;">↓ 6. その他関係する事項</p> <p>産業廃棄物運搬 (自社)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>産業廃棄物処理業者 (委託)</p>		
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
① 現状	【前年度 (2021年度) 実績】	
	産業廃棄物の種類	ガラス・コンクリート陶磁器くず
	排出量	1, 427 t
	(これまでに実施した取組) 残コンクリートの持帰りを個人の私有地及び私道のコンクリート舗装に使用した。(300 t)	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	ガラス・コンクリート陶磁器くず
	排出量	1, 000 t
	(今後実施する予定の取組) 1. 注文段階でより正確な必要数量を算出するために、得意先業者にお申し度いし産廃発生量を抑制する。 2. 地元の協力をお願いしコンクリート舗装を行う。 3. 社内教育を利用して環境問題全般についてと、産業廃棄物の減量について研修会を実施し、この問題について全社員の共通理解を得られるようにする。	
産業廃棄物の分別に関する事項		
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ガラス・コンクリート陶磁器くず	
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ガラス・コンクリート陶磁器くず	

## (第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（2021年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラス・コンクリート陶磁器くず	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	300 t	t
	(これまでに実施した取組)  残コンクリートの持帰りを個人の私有地及び私道のコンクリート舗装に使用した。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラス・コンクリート陶磁器くず	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	500 t	t
	(今後実施する予定の取組)  未舗装の個人の私有地及び私道が多くあるので、今後も協力をお願いします。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（            年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## (第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（2021年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	ガラス・コンクリート陶磁器くず	
	全処理委託量	1,500 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	ガラス・コンクリート陶磁器くず	
	全処理委託量	500 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	500 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 注文段階でより正確な必要数量を算出するために、得意先業者に お願いし産廃発生量を抑制する。</li> <li>2. 地元の協力をお願いしコンクリート舗装を行う。</li> <li>3. 社内教育を利用して環境問題全般についてと、産業廃棄物の減量 について研修会を実施し、この問題について全社員の共通理解を 得られるようにする。</li> </ol>			
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。